

令和6年度
航空宇宙生産技術人材育成・研究開発
プロジェクトに係る
外部評価委員会

評価結果＜概要版＞

令和6年10月

航空宇宙生産技術人材育成・研究開発プロジェクトに係る
外部評価委員会 委員名簿

(敬称略)

委員長：松島 紀佐 (日本航空宇宙学会 人材育成検討委員会委員)

委員：福島 明 (日本航空宇宙工業会 技術部部長)

勝田 健太郎 (日本能率協会 中部事務所長)

青山 美代子 (中部経済産業局 地域経済部 航空宇宙・次世代産業課長)

飯田 佳弘 (岐阜県工業会 専務理事)

評 価 活 動

令和6年10月21日 評価資料に基づく事前評価 (書面)

10月28日 委員会開催

- ・航空宇宙生産技術開発センターおよび県からの
概要説明・事業報告
- ・質疑応答
- ・評価結果審議

評価結果

1 プロジェクトの推進に関すること

項目	評価点
プロジェクトの体制等は適切か	4 優れている
実施スケジュールと実施状況は妥当か	4 優れている
予算配分と執行状況は妥当か	4 優れている
KPI 達成に向けた取り組みは十分か	4 優れている

令和5年度からのプロジェクト実施については、航空機機体産業を対象とした本粋事業は国費の支援が終了し、自走期間に入り、新たに採択されたそれ以外の産業を対象とした展開粋事業が加わり、本プロジェクトの産業分野と研究開発の対象が広がった。過去5年のプロジェクト推進による経験の蓄積が功を奏しており、この変化にプロジェクトは問題なく対応し、KPIの達成状況も良好である。特に、「技術開発・実証ラボ」における地元企業と連携した地域産業の課題解決に向けた研究活動は高く評価できる。一方で短期的な研究成果だけでなく、センターの中長期的な研究開発ビジョンやコアコンピタンス獲得に向けての施策も検討して欲しい。また、プロジェクトのPDCAサイクルによる改善のためにも、今後の課題を明らかにして各種会議で議論していただきたい。

2 人材育成に関すること

項目	評価点
カリキュラムと実施体制は適切か	4 優れている
実施状況は十分か	4 優れている

受講者の多様なニーズに対応できるようカリキュラムや実施体制が年々進化している。また、センターの将来的な自立を見据えて社会人向け教育プログラムの一部を有料化したことも高く評価できる。受講者数の推移もすこぶる順調であり、特に学生と社会人の混成授業は他に類を見ない優れたものである。今後の課題として、この混成授業の効果について、就職との関連性などの分析があると良い。

高度人材育成・現場実装強化事業において、これまでのセンターの研究開発シーズを6社の企業現場に実装し、企業の課題解決に有効であることが実証された。企業と大学教員、学生、ラボ研究が密につながりお互い切磋琢磨できると思われ、高く評価できる。6社の実証例を広報するなどして、本事業がプロジェクトのタイトルにある「地域における知・人材の集積・定着」の大きな推進力となることを期待する。

3 研究開発に関すること

項目	評価点
<本枠(航空機機体産業)に関する研究開発事業について> 自走しながら着実に研究開発を実施しているか	4 優れている
<展開枠(その他産業)に関する研究開発事業について> 蓄積した技術を地域産業に展開する事業内容と実施体制は適切か	4 優れている
進捗と成果の状況は十分か	4 優れている

<本枠(航空機機体産業)に関する研究開発について>

令和5年度からの自走期間においては、ほとんどの研究開発課題が企業との共同研究として実施されている。現場導入が着実に進み、生産性向上に役立っており、短期で成果を上げなければならない喫緊の課題解決に対しては順調である。

一方で、将来、センターが自立するためには、他に頼ることなくセンターが独自にアピールできる研究開発力や成果を獲得しておくべきと考える。

<展開枠(その他産業)に関する研究開発事業について>

展開枠においては、センターの持つ研究成果を活用して航空機機体製造以外の地域産業を活性化させるため企業との連携が不可欠である。センターに技術開発・実証ラボが創設され、ラボ研究員を中心とした共同研究が行われている。初年度にもかかわらず、航空機機体製造以外の様々な業種の企業と連携できており、PDCA サイクルが確実に機能することで適切な計画が立案され、進捗は申し分ない。

国内の航空機産業においては、エンジン・装備品事業を増強する必要があり、それらのサプライヤーに広くセンターの研究成果を横展開できるとよい。展開枠は初動段階であるが、早期の成果を期待したい。

4 地域への展開に関すること

項目	評価点
センターで育成した人材の地域産業への定着の取り組みは適切か	4 優れている
センターで開発した技術の地域産業への普及の取り組みは適切か	4 優れている
地域ニーズを掘り起こし、活動の幅を広げるための活動は十分か	3 適切である

現状の限られた予算・人員を最大限に生かしての努力がなされている。人材の地域への定着・研究成果の現場導入などのKPIの数値も良好であり、成果が上がっている。志のある地域企業に向けての人材育成及び生産性向上などに対する多面的な支援策も充実している。企業への個

別訪問による説明などの地道な活動も適切である。しかしながら、今後の地域企業との組織的な連携強化のためには、公設試の活用が望まれる。一方、地域における人手不足や若年者の製造業離れなど、放置できない課題にも取り組んでいかなければならない。人材の定着に関するKPIについて、就職者数の数値を確認するだけでなく、要因の緻密な分析を行うことが必要である。また、世界的視点から地域の問題解決を図るグローバルな取り組みをプロジェクトの活動に取り込んでいただくことも検討いただきたい。

5 今後の取り組みに関すること

項目	評価点
センターの自立への取り組みは十分か	4 優れている
大学改革につながる取り組みになっているか	4 優れている
生産技術の人材育成と研究開発の拠点となるための取り組みは適切か	4 優れている

本卒から継続した自走としての共同研究が多く行われており、自立に向けての努力が感じられる。並行して、大学もしくはセンターの独自技術を獲得すべく、競争力のある技術開発についても検討すべきである。

岐阜大学と名古屋大学が連携して人材育成に取り組んでいることや、大学と地域の産・官が組織の壁を取り払い密接に連携し、地域産業の振興を目指していることは大学改革の優れた取り組みの一つである。地域産業の振興において、一層の企業との共創、社会実装に期待したい。

人材育成・研究開発・地域展開への並々ならぬ努力とその成果は高く評価している。航空宇宙産業以外へ事業の対象を広げたことも優れた取り組みである。一方、世界で戦わなければならない製造業の現実を考慮し、国際的な競争力獲得に向けた中長期的な研究開発ビジョンなども検討していただきたい。

(以上)